誰にでも分かる
刑法総論

佐々木知子＝著

立花書房／2011年４月刊／Ａ５判　2000円

豊富な経験を持つ実務家による待望の入門書

刑法を学ぶ者が抱える悩みの一つに、学説の対立がある。どの法分野にも学説の争いはつきものだが、刑法ほど学説の争いが激しくかつ多い分野は他にはないであろう。そのため、学説の対立を踏まえて学習すると、肝心の部分が霞み十分な学習効果が得られずに、途中で刑法学習を断念してしまう者もいる。こうした悩みを抱えた人たちにお薦めしたいのが、本書である。本書は、検察官、国会議員、弁護士、大学教授といった様々な経験をもつ筆者が、思い切って学説の争いの説明を省き、随所に手続法や刑事政策の解説も交えつつ、刑事法全体の中で刑法総論とはどういうものかについて丁寧にかつ平易に説明する点に特色がある。本書は初学者、警察官、裁判員向けに通読用に書かれたものであるから、刑法の森を暗中模索する学習者には、この夏是非とも一読をお薦めしたい入門書である。